The Japan Society of Educational Sociology

地方高校生の進路選択と地域移動

― 岩手県における高校生調査の分析 ―

遠藤圭一（岩手県立大学大学院）・阿部晃士（岩手県立大学）

1．問題の所在

高校生の進路選択に関して、親の学歴や職業といった階層要因が影響していることはよく知られている。こうした出身階層そのものの直接効果は弱いけれども、高校タイプを経由した間接効果が大きいため、結果的に学歴の高い親・職業的地位の高い親をもつ高校生ほど、大学に進学する可能性が高くなる。このことは、地域における職業構成や学歴構成といった階層要因が、地域間に存在する教育達成の不平等（大学進学率の格差）に結びついていることを意味する。

しかし、教育達成の不平等は、すべて階層要因に還元できるわけではない。出身階層のような個人レベルの変数とは独立に、地域の教育機会が構造的な影響を及ぼしているとの指摘もある（尾嶋 1986）。また、片瀬ら（1997）は、宮城県仙台圏と気仙沼市における調査データから、階層要因をコントロールした後にも高校生の教育アスピレーションや保護者の教育期待に格差があることや、その背後に地域の教育文化や産業構造の変化に起因する学歴に対する捉え方の違いがあることを示している。

一方、特に地方における高校生の進路選択を考える際には、地域移動との関連を視野に入れる必要がある。吉川（2001）が島根県での調査から描いた「ローカル・トラック」ように、地方高校生の進路選択においては、（実現するか否かとは別に）地元での有利な就職のために県外の大学に進学するといったイメージが存在することもあろう。また、大学進学者の分析からは、進学時の地域移動に関して、移動コストの負担可能性としての階層要因や地方における教育機会不足というプッシュ要因の重要性は相対的に低下し、何らかの選択性を帯びた移動が増加していることも指摘されている（林 2002）。

本研究では、相対的に教育機会に恵まれていない地方高校生の進路選択について、教育アスピレーション（特に大学進学希望）と地域移動に注目しながら分析し、そこに本人の価値意識がどのように結びついているかを検討する。

2．データ

分析に用いるのは、岩手県立大学社会意識研究会（代表：阿部晃士）が 2004 年 6 月から 7 月に実施した「高校生活と進路選択に関する意識調査」のデータである。調査対象は岩手県内 15 校（盛岡地域 6 校，県北地域 3 校，沿岸地域 3 校，県南地域 3 校）の高校 3 年生 1,888 名とその保護者で、有効回答は高校生 1,727 名（回収率 91.5%）、父親 1,334 名、母親 1,565 名であった。

本報告では、このうち盛岡地域と二戸を中心とする県北地域（以下、二戸地域）のデータを分析する。盛岡地域 6 校の内訳は進学校 2，進路多様校 1，専門高校 3、二戸地域 3 校の内訳は商業科と普通科からなる進学校 1，進路多様校 1，専門高校 1 である。

盛岡地域には、県庁所在地である盛岡市

NII-Electronic Library Service

（約 29 万人）を含めて複数の大学が存在する。一方の二戸地域は、人口 3 万人弱の二戸市があるが、周辺市町村の多くは過疎市町村に指定されており、第 1 次産業や第 2 次産業の就業者が多い。盛岡市までは高速道路を利用して約 1 時間かかり、2002 年に東北新幹線二戸駅が開業したものの、在来線が廃止されるなど交通の便のよくない場所である。

3．分析

希望進路をみると、男女とも、盛岡地域の高校生の 5 割弱が大学進学を希望しているのに対して、二戸では 2 割強にとどまっており、その分、専門学校や就職の希望者が多いことがわかる（図 1）。

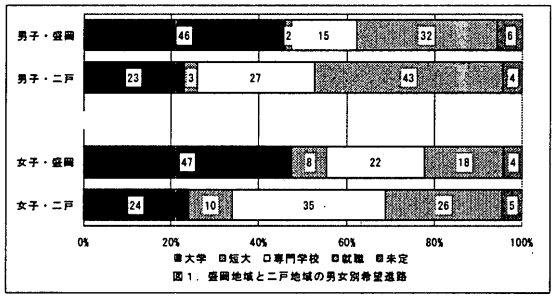

図 1．盛岡地域と二戸地域の男女別希望進路

地域別に大学進学希望の有無を従属変数にしたロジスティック回帰分析をおこなうと、親の期待を経由した階層要因の効果がみられることは共通だが、盛岡地域では本人の自己実現志向（打ち込めるものを持つことや趣味を重視）が高いことが大学進学希望に結びついているのに対して、二戸地域では有意な関連はみられなかった。

次に、進学時と就職時の希望居住地の組み合わせから、進学希望者を「地元定住」「（地元）進学後流出」「Ｕターン」「（進学時）流出」の４類型に分類した。この類型ごとに価値意識の違いをみると、地域愛着意識（今住んでいる地域が好き、地域のために役立ちたい）については、盛岡でも二戸でも地元定住型がもっとも高く、流出型がもっとも低かった（図は省略）。その一方で、自己実現志向についてみると、盛岡では類型ごとの違いはみられなかったが、二戸では、進学後流出型や流出型の自己実現志向が高く、Ｕターン型がもっとも低くなっていた（図２）。

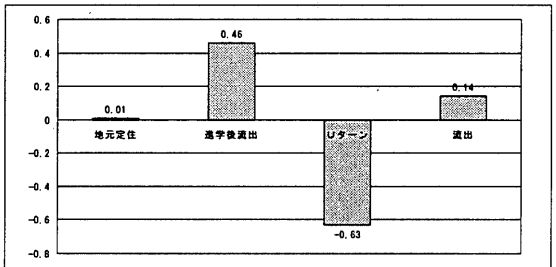

図 2．地域移動類と自己実現志向（二戸）

また、保護者の回答を分析すると、二戸地域では、親の教育期待が高校生の希望よりも低いケースが多いこと、盛岡地域に比べると大学進学希望の高校生にも地元定住やＵターンを希望する比率が高いことがわかる。

以上より、盛岡地域の高校生については、自己実現を求めながら県内・県外を問わず進学先を検討しているのに対して、二戸地域では、県内での進学・就職を期待する親に対して、県外への流出によって自己実現を果たそうと考えていることがうかがえる。

引用文献

林 拓也. 2002.「大学生の地域移動−その規定要因とコスト負担−」伊藤由樹子ら（編）『全国大学生活協同組合連合会「学生生活実態調査」の再分析（1991 年から 2000 年）』東京大学社会科学研究所. 18-35.

片瀬一男・阿部晃士. 1997.「沿岸地域における学歴主義と教育達成−『利口、家もたず、達者、家もたす』−」『教育社会学研究』61: 163-183.

吉川 徹. 2001.『学歴社会のローカル・トラック−地方からの大学進学−』世界思想社.

尾嶋史章. 1986.「教育機会の地域間格差と教育達成」『大阪大学人間科学部紀要』12: 97-116.

NII-Electronic Library Service